

[¹⁸F]PM-PBB3 PET検査を受けた皆様へ

(臨床研究に関する情報)

病気の原因の解明、病気の予防・診断・治療の改善、生活の質の向上などのために、人を対象として行われる研究のことを臨床研究と言います。より良い医療の発展のために、多くの患者さんに臨床研究にご協力いただくことが必要です。

量子科学技術研究開発機構では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、本研究とは別途に実施された別の臨床研究のデータもまとめて解析することによって行います。このような研究は、文部科学省・厚生労働省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」により、対象となる方のお一人ずつから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先：窓口」へご照会ください。

[研究課題名]

脳内タウPETイメージングを用いた統合失調症と前頭側頭型認知症の共通病態の同定に関する研究

(期間:2017年2月28日~2025年3月31日)

[データ解析の対象となる研究課題名]

量子科学技術研究開発機構において、以下の研究に参加された方

- 1) [¹⁸F]PM-PBB3を用いた神経変性疾患におけるタウ蛋白病変と臨床症状の関連性についての研究(量研機構研究計画書番号：17-034)
- 2) 脳内ホスホジエステラーゼ10Aおよび脳内タウのイメージングによる双極性障害の背景病態に関するPET研究(量研機構研究計画書番号：17-027)
- 3) 老年期精神障害の背景病態に基づく層別化およびタウ病変の進展様式の解明を目的とするPET研究(量研機構研究計画書番号：19-040)
- 4) 放射性リガンド[¹⁸F]PM-PBB3の脳内タウイメージング製剤としての有効性及び安全性に関する研究(研究計画書番号：16-036)

[研究機関] 国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構 量子医科学研究所

[研究責任者] 高畑 圭輔 (脳機能イメージング研究センター)

[研究の目的] [¹⁸F]PM-PBB3を用いたPET検査を行うことで、統合失調症と前頭側頭型認知症(FTD)における異常タウ蛋白沈着の分布パターンをもとに、両疾患の一部に共通した神経基盤を探索することを目的としています。

[研究の方法]

- 対象となる方：上記1) 2) 3) 4)の研究に参加された方
- 利用する研究情報：年齢、性別、今までの病気の経過、診察所見、検査所見(心理検査結果、MRI画像、¹¹C-PiB画像、¹⁸F-PM-PBB3画像)

別途実施済みの研究データを使用しますので、新たな質問や検査の必要はありません。

[個人情報の取り扱い]

お名前や個人情報が出ることは一切ありません。

利用する情報からは、お名前、住所など、その他の個人を直接識別できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も対象となる方を特定できる個人情報が公表されることはありません。(国立研究開発法人量子科学技術研究機構個人情報保護規程に従い、資料の保管管理及び利用等に関する措置を行います。)

この研究にご自分の研究記録を使ってほしくない方(又は代理人の方)は、いつでもお申し出いただけますが、できるだけ下記の期間に[問い合わせ先：窓口]にお申し出くださるようお願い致します。データ解析に使用して個人情報と切り離されてしまった情報は取り除けないことがあります。個人情報が表に出ることは一切ありません。

2020年7月1日までに検査を受けた方：2022年12月31日まで

この調査へのご自分の診療記録の使用をお断りになっても、不利益を受けることは全くありません。

[問い合わせ先：窓口]
千葉県千葉市稲毛区穴川4-9-1
量研機構 QST病院 臨床研究支援課
電話；043-206-4713 平日： 9：00 ～ 17：00